学校点描

平成 27 年度が順調に船出を
しました。

《M中学校》

NO 1 H27. 4. 13

担当：教頭

今年度、本校の教頭として赴任しました、高橋晋作（たかはし しんさく）と申します。4年ぶりにM中学校に戻ってきました。よろしくお願ひします。4月6日の新任式の中で、2・3年生に挨拶をしました。何を話そうか考えてきたのですが、あまりにも、生徒たちの姿勢の立派さや、目の輝きに圧倒されて、用意してきたこととまったく違う話をしてしまいました。

実は、わたしは、M中学校に来るのが3回目です。赴任して町役場に行くと、なんだか見たような顔がちらほら見られます。最初の教え子は、もう40過ぎていますから、仕事でも中堅どころになっている世代です。うれしいことに、私の顔をみて、こそこそ隠れるなんて人はいません。用事を済ませて帰ろうとすると、一人の女性が近寄ってきて、「先生、疲れる？」と、チョコをくれました。数年前の教え子です。

蛹（さなぎ）の時代

入学式・対面式を無事に終えることができました。対面式は、時間の無い中で、生徒会の子どもたちが、自分たちの手で一生懸命に式を運営していました。準備時間の無い中ですので、アクシデントもあちらこちらであります。そのたびに、担当の先生はぐっところえて、なるべく手助けをしないのです。

翌朝から、学校に着いてすぐに校内の巡視を開始しました。3階の3年生の教室に入ると、もう教室の掲示物は綺麗に仕上がっています。生徒達もおのおの自分の好きな場所で語り合っています。次に、2階の2年生に移動します。廊下には女子生徒がグループ毎に集まって話をしてしています。仲のよい友達が来ると、大声で名前を呼んだりしていますよ。教室に入って様子を見てみると、駅伝練習を終えた生徒たちが汗をふきながら入ってきました。最後に1階の1年生の教室に行ってみます、ほとんどの生徒が自分のイスに腰を掛けて、黒板に向かってきちんと座っています。まだまだ緊張感でいっぱいなようです。教卓の上には、雑巾の山が積み上がっていました。

明るい表情の生徒や、下を向いて登校する生徒、仲間といっしょに宿題の問題集を見せあっている生徒もいれば、自分の席について静かに本を読んでいる生徒もいます。

このように学校は、いろいろな子どもたちが集まって成り立っている組織体です。そのことをあらためて実感するのが朝の風景です。

蛹（さなぎ）とは、昆虫の中の一部のもので、成虫になる寸前にとるほとんど動かない時期をさします。中学時代は、そんな蛹（さなぎ）の時期に非常によく似ています。

外見では、中がどうなっているのか一切わからない。じっと動かないので、生きて
いるのか死んでいるのかさえわかりません。だからといって、無理やり、蛹（さな
ぎ）を割って、中を開いてしまうと、幼虫は死んでしまいます。

あくまでも、幼虫が蛹（さなぎ）の殻を割って出てくるには、蛹（さなぎ）の中
にいる幼虫自身が自分の力で行わなくてはならないのです。

学校教育も家庭教育もそこをわかっていないといけません。

明るい表情の生徒も、下を向いて登校してくる生徒も、友人と楽しそうに会話して
いる生徒も、そしてひとりで読書している生徒も、みんな見えないところでは、どろ
どろしたいろいろな思いを持っているのが中学生です。言いようもない苦しさや辛さ
を、思春期という蛹（さなぎ）の中にしっかりと抱えて、いつか必ず自分から殻を割
ってでていくのです。

教師や保護者は、その見極めが求められます。誰にでも、子どもにとって、楽な生
活、苦勞のない生活を送らせたいという気持ちはあります。ただ、それだけでは、こ
の蛹（さなぎ）から、自分の力で割って出てくる力は養えません。時に、自分の力の
足りなさに挫折したり、思いが通じない友人関係の悩みなどが、のちにくる蛹（さな
ぎ）の時代から、社会という世界に旅立つときのたくましいエネルギーになるのだと
理解するべきです。

対面式の最中に、突然、一列に並んでいる生徒会の生徒たちが、小さな声でつぶや
きはじめます。「マイク無いよ・・・」「指揮台片付けてない・・・」練習では想定
できない場面が、出てきたようです。

どうするのかじっと見ていると、大勢の人が見守る中、ある生徒が、体育館中央に
走っていきます。マイクの位置をずらすためです。すると、椅子に座っていた、2年
生の男子生徒二人が、気が付いたように、指揮台を片付けました。

生徒会担当の公大先生の粘り勝ちのようです。

アクシデントは、子どもたちの勇気や、やさしさなどを育む場面と考えたいわけ
です。

敷かれた線路の上を確実に走るだけでは、中学生として必要な本当の力は養えませ
ん。

だから、学校は生徒たちに、自分たちで乗り越えるための様々な課題を用意するの
です。

蛹たちのつぎの課題は、「運動会を成功させるには」です。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp